

前橋市の野鳥

～ 平成26年度 前橋市自然環境調査（鳥類） 概要版 ～



平成27年3月
前橋市

調査の目的

本市は、赤城山麓に代表される豊かな森林、利根川や広瀬川をはじめとする大小多数の河川、農地や公園などの自然的な空間など、様々な環境をもつ美しい緑豊かなまちです。

しかし、私たち人間の生活様式の変化などにより、植物や動物が生育・生息する環境は失われつつあり、昔は当たり前に見られた生き物が見られなくなり、逆に昔はいなかった生き物が新たに出てくるなどの変化が出ています。

生き物を継続して調査し、情報を蓄積することで、人間の目からだけではなく、これらの環境の中で実際に生活している『生き物の視点』から環境の変化を捉えることができます。

本市では、その取り組みの一つとして、市内で見られる動植物（植物、鳥類、哺乳類・は虫類・両生類、魚類・水生生物、昆虫類）を一斉調査する「自然環境基礎調査」（以下、基礎調査）を行いました。また、調査対象ごとに追跡調査を続けており、平成 26 年度は「鳥類」を対象に調査を行いました。

これからも、私たちが受け継いできた豊かな自然を大切にしていきたいと思います。

調査の概要



平成 26 年度は「鳥類」を対象に、専門家による調査を行いました。

調査項目	調査実施日	調査地点	調査方法
鳥類	① 平成 26 年 6 月 1 日～3 日（繁殖期） ② 平成 26 年 12 月 15 日～17 日（越冬期）	市内の 14 地点 ^注	ライン センサス法

注) 調査地点の位置は、2 ページの図をご覧ください。

鳥の調査って何をしているの？

本市の「自然環境調査（鳥類）」では、「ラインセンサス法」による調査を実施しています。

「ラインセンサス法」とは、あらかじめ設定した調査ルートを、一定の速さ（時速 1.5～2km 程度）で歩き、鳴き声や、双眼鏡による確認で、ルートの片側 25m（両側 50m）の範囲に出現した鳥類の種類や個体数などを記録する調査方法です。その地域の鳥類と個体数を、定量的に把握することが出来ます。通常、鳥類が盛んに鳴き交わす夜明け頃から調査を開始します。

このほか、見晴らしの良い場所に調査地点（定点）を設定して調査する「定点観察法」、様々な環境を回りながら任意に観察を行う「任意観察法」などがあります。

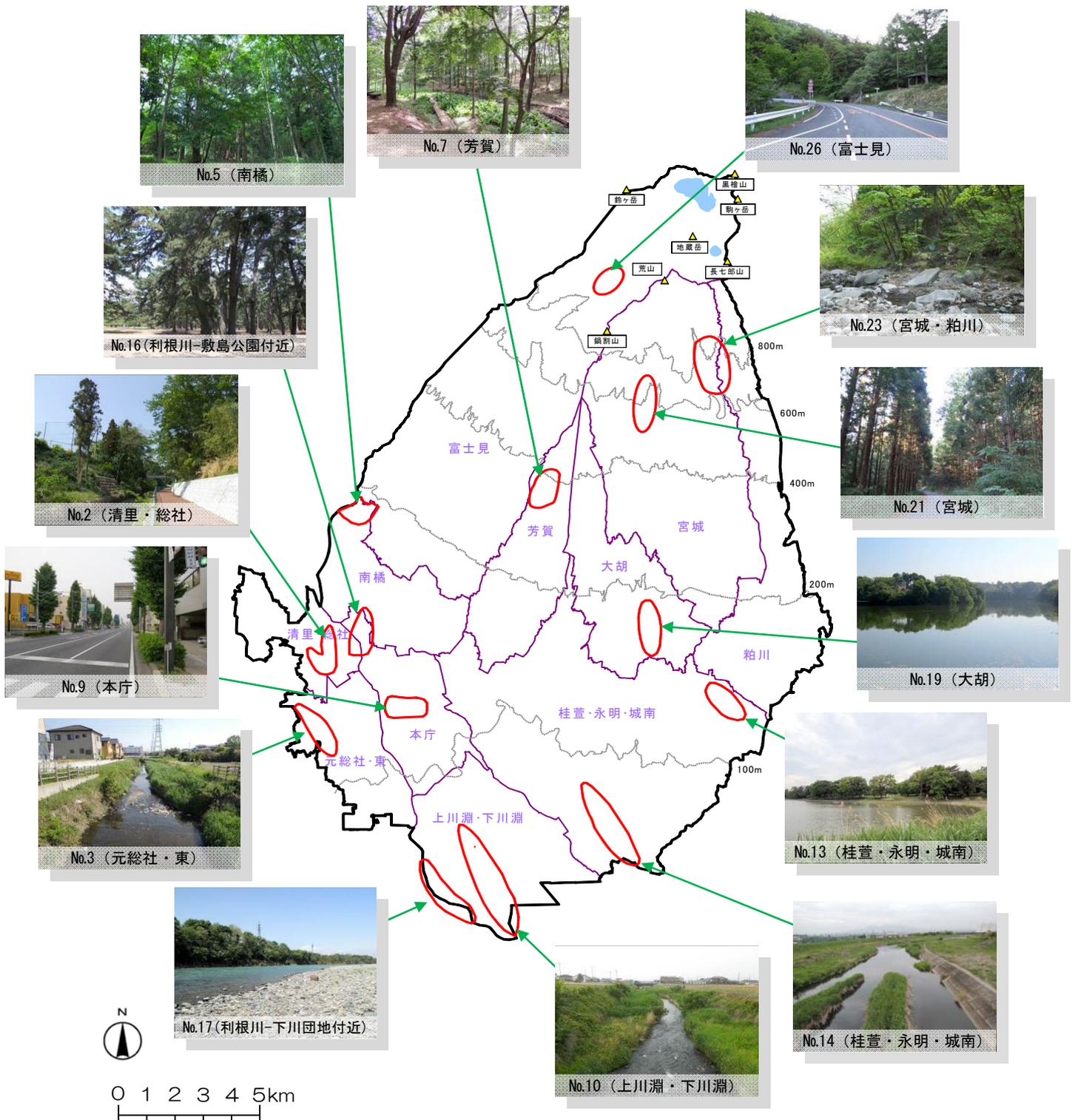


※表紙の写真：(上) モズ、(左) キビタキ、(右下) カワセミ

調査地点とその環境

本市は、北部に位置する赤城山の山頂から、中央部から南部にかけて広がる平坦な土地まで、緩やかに傾斜しており、その中に、森林、河川、池・沼、水田、畑、住宅地など、さまざまな環境をもっています。

今回の調査では、基礎調査で設定した 27 地点の中から、14 地点を選び、調査を行いました。なお、平成 21 年に合併した「富士見地区」を含める追跡調査は、今回が初めてです。



調査地点の位置

調査結果(1)

調査の結果、繁殖期(初夏)36科63種、越冬期(冬季)34科72種、合計で41科96種の鳥類を確認しました。

確認種は、本市の環境を反映し、オオアカゲラやミソサザイ、サンコウチョウなどの樹林に生息する種、ウグイスやホオジロなどの林縁周辺に生息する種、キジやヒバリなどの草地や耕作地に生息する種、バンやカワセミなどの水辺に生息する種、ツバメやスズメなどの人家周辺に生息する種などが見られました。この他、外来生物であるコジュケイやカオジロガビチョウ、家禽(飼育種)であるアヒルも確認されました。

確認種数が多かった地点は、No.13(桂萱・永明・城南)の43種、No.16(利根川-敷島公園付近)の41種などでした。これらの地点は、河川、池・沼、樹林、草地など多様な環境が、良好な状態で残されていると考えられます。



ヤマガラ



ヒメアマツバメ(子育て中)



アオサギ



チョウゲンボウ



キジ



コゲラ

確認した種(一部)

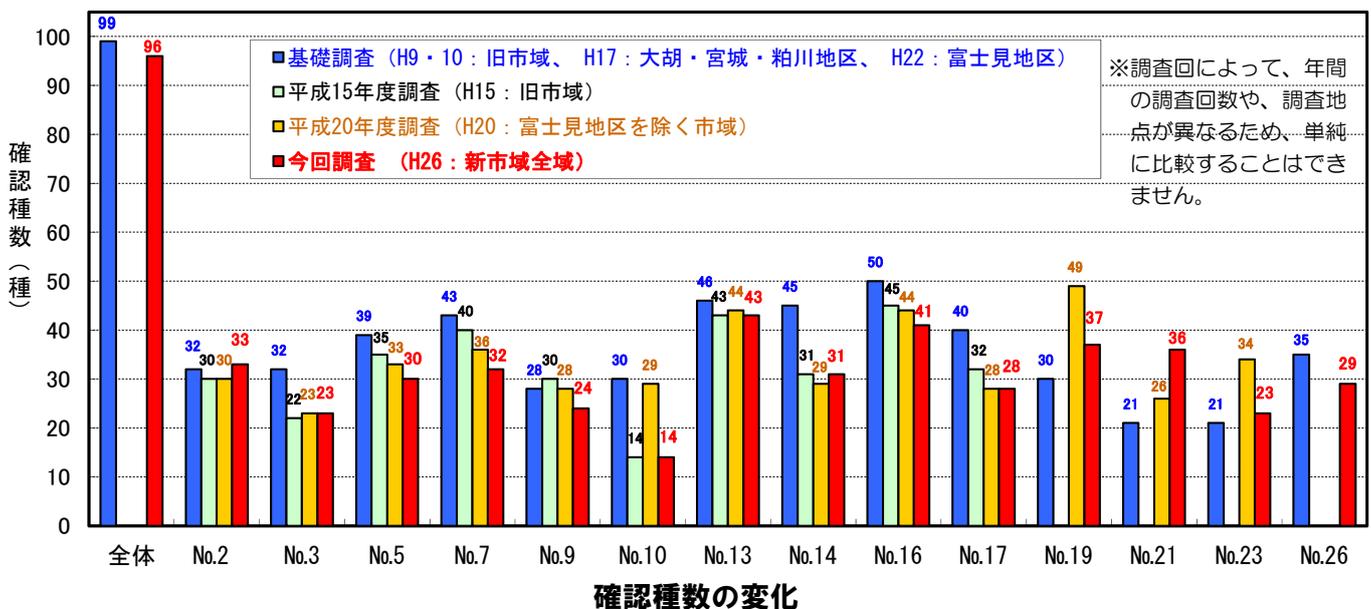
調査結果(2)

今回の調査では、本市で初めて、「ヒメアマツバメの繁殖」が確認されました（3ページに、子育て中の写真があります）。今後の繁殖状況を見守っていきたいですね♪

一方、「コアジサシ」というカモメの仲間は、基礎調査（平成9・10年度実施）では確認されたものの、今回の調査では確認できませんでした。利根川などの「砂礫地」で繁殖する鳥ですが、そういった環境が草地になったり、河川改修で失われたり、繁殖期に人が立ち入ったりすることで、繁殖できなくなり、全国的にも減少しています。

今回調査した14地点で、確認個体数が上位10種となった種は、上から順に、スズメ、ムクドリ、カワラバト、ヒヨドリ、ハシブトガラス、カルガモ、ツバメ、コガモ、カワラヒワ、シジュウカラでした。いずれも人家周辺の街路樹や耕作地、公園などで普通に見られる種です。みなさんの周りでも、これらの野鳥に出会うことができるかもしれませんね♪

過去の確認種数と比較すると、多少の変化がありました。確認種やその生息環境に大きな変化はありませんでした。一方、地点別にみると、市街地が増えることで水田などの湿地を好む鳥が減少したり、樹林の伐採により樹林を好む鳥が減少する などの変化が出てきています。



クイズ「この鳥はどこが好き？」

動物は、それぞれの生活に適した環境に生息していますが、鳥類も例外ではありません。鳥の出現状況の変化は、身近な環境の変化を教えてくれるバロメーターにもなっているのです。

さて、右の写真の3種（キビタキ、オオヨシキリ、ヒバリ）が生息する環境として、正しい組み合わせはどれでしょうか？

線で結んでお答えください。

※答えは、次のページにあります。



キビタキ



オオヨシキリ



ヒバリ



畑や草地



樹林



ヨシ原

希少な種の確認状況

ここでいう希少な種とは、国（環境省）や群馬県が選んだ「絶滅のおそれのある鳥類」を指します。これらの種は、開発や樹林の伐採、生息環境の変化などにより、数が減少し、絶滅が心配されています。希少な種がいるということは、その鳥が暮らせる環境が残されていることを示しています。

今回の調査では、アオバト、オオバン、ツツドリ、カッコウ、イカルチドリ、コチドリ、ハチクマ、ハイタカ、オオタカ、オオアカゲラ、サンコウチョウ、ノジコ、クロジの13種が確認されました。

希少な種の確認状況

科名	種名	希少な種の選定基準 ^{注2)}			清里・総社	元総社・東	南橋	芳賀	本庁	・上川淵淵	桂城・南永明	敷島公園付近	利根川	下川回地付近	大胡	宮城	宮城・粕川	富士見
		種の保存法	環境省RL (H24.8)	群馬県RDB (H24.12)	No.2	No.3	No.5	No.7	No.9	No.10	No.13	No.14	No.16	No.17	No.19	No.21	No.23	No.26
ハト	アオバト			DD												●		●
クイナ	オオバン			NT						○	○							
カッコウ	ツツドリ			DD												●		●
	カッコウ			NT			●											
チドリ	イカルチドリ			NT	○			●				●						
	コチドリ			DD									●					
タカ	ハチクマ		NT	NT														●
	ハイタカ		NT	NT									○					
	オオタカ	国内	NT	NT							○		○					
キツツキ	オオアカゲラ			DD												○		
カササギヒタキ	サンコウチョウ			VU												●		
ホオジロ	ノジコ		NT	DD														●
	クロジ			DD												○		
8科	13種	1種	4種	13種	1	-	1	-	1	-	2	1	2	2	-	5	-	4

注 1) 凡例 ●：繁殖期のみ確認 ○：越冬期のみ確認

注 2) 希少な種の選定基準

- 種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年6月5日、法律第75号）
国内：国内希少野生動植物種
- 環境省RL（H24.8）：「環境省版レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）」
（第4次レッドリストの公表について）（環境省報道発表資料、平成24年8月発表）
NT：準絶滅危惧
- 群馬県RDB（H24.12）：「群馬県の絶滅のおそれのある野生生物 動物編（2012年改訂版）」（群馬県、平成24年12月）
VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足

クイズ「この鳥はどこが好き？」の答え

正解は・・・

◆キビタキ（夏鳥*）⇒ 樹林	◆オオヨシキリ（夏鳥*）⇒ ヨシ原	◆ヒバリ（留鳥*）⇒ 畑や草地
キビタキは、ほぼ全国に飛来し、よく茂った広葉樹林で暮らし、飛んでいる虫などを食べています。オスは、胸のオレンジ色がとても美しい。ポイピリリ、ピピロピピロと美しい声でさえずります。	オオヨシキリは、北海道～九州に飛来し、湿地などのヨシ原で暮らし、虫などを食べています。目立たない色をしています。オスは、ギョギョシ・・・と盛んにさえずり、縄張りを宣言します。	ヒバリは、北海道～九州の河原や畑、草地で暮らし、地上を歩いて草の実や虫を食べています。目立たない色ですが、頭に短い羽（冠羽）があります。ピーチュル・・・と美しい声でさえずります。

*夏鳥：日本で繁殖するため、春～初夏に南の国から渡って来て、秋に帰る鳥。 留鳥：一年中、ほぼ同じ場所で生活する鳥。

・・・上手くすみ分けて暮らしてるんだね♪

外来種の確認状況

ここでいう「外来種」とは、人間の活動によって、外国から入ってきた生きものを指します。

今回の調査では、コジュケイ、カワラバト、ホンセイインコ、ガビチョウ、カオジロガビチョウの5種が確認されました。

このうち、「ガビチョウ」と「カオジロガビチョウ」は、外来生物法という法律で「特定外来生物」（生態系や、農林水産業などに被害をおよぼす恐れがあるため、飼育や輸入、野外への放出などを禁止する種）に指定されています。ガビチョウは、本市の調査では「初記録」です。また、カオジロガビチョウは、基礎調査（平成9・10年度実施）の確認地点数が3地点だったのに対し、今回の調査では8地点に増加しました。調査を継続することで、こんなこともわかるんですね。

外来種の確認状況

科名	種名	外来種選定基準 ^{注2)}			清里・総社	元総社・東	南橋	芳賀	本庁	・上下川淵	桂萱・永明	・城南	・永明	敷島公園付近	利根川	下川団地付近	利根川	大胡	宮城	宮城・粕川	富士見
		外来生物法	外来生物リスト	外来種ハンドブック	No.2	No.3	No.5	No.7	No.9	No.10	No.13	No.14	No.16	No.17	No.19	No.21	No.23	No.26			
キジ	コジュケイ		●	●	◎	◎	◎	◎		◎				◎		◎					
ハト	カワラバト			●	●	◎			●	◎	○	●	●			●					
インコ	ホンセイインコ		●	●	○	◎															
チメドリ	ガビチョウ	特定	●	●				◎							◎			●	◎		
	カオジロガビチョウ	特定	●	●	●	○	●	●			●				◎	○	◎				
4科	5種	2種	4種	5種	4	4	2	3	2	1	3	1	1	3	2	3	3	1	—		

注1) 凡例 ◎：繁殖期のみ確認 ○：越冬期のみ確認 ●：2期で確認

注2) 外来種選定基準

・外来生物法：「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」（平成16年、法律第78号）

特定：特定外来生物

・外来生物リスト：「我が国に定着している外来生物のリスト（暫定版）」（平成18年、特定外来生物等専門家会合（第7回）資料）

・外来種ハンドブック：「外来種ハンドブック」（日本生態学会編集、平成14年、地人書館）

ウグイスがいなくなる！？ ～外来種の脅威～

ホーホケキョ♪ 昔から日本人に愛されてきたウグイス。春告鳥の別名があるウグイスは、その美しい声から日本三鳴鳥に数えられています。温かい陽気の中であの声を聞くと、なんとも幸せな気持ちになりますよね！

でも、このウグイスの声、もしかすると聞こえなくなる日が来るかも！？

ココは、ウグイスが暮らす「ササやぶのある林」・・・**ホイチーヨ ホイチーヨ♪ チューンチュン♪** あのうるさい声は何でしょう？ あの大きな声は『ガビチョウ』と『カオジロガビチョウ』。外来生物法で「特定外来生物」に指定されている鳥です。本来は東アジアや東南アジアで暮らすこの鳥。ヤブのある林で繁殖し、地上で餌を採ります。

本州や九州で分布を広げる「ガビチョウ」と、赤城山の南で記録され徐々に分布を広げる「カオジロガビチョウ」。前橋市は、日本でも珍しい、2種を両方確認できる所です。この調査でも、2種が以前より分布を広げていることがわかりました。大きな声と繁殖力の強さ・・・ウグイスなどのヤブで繁殖する鳥や、ツグミなどの地上で餌を採る鳥たちの今後が心配です。ちょっと大げさかもしれませんが、「ウグイスがいなくなる！？」の原因、わかってもらえましたか？

さて、この2種が日本に定着したのは、輸入業者による放鳥や、飼育個体の逃亡が原因だとか。結局は人が原因だったんですね。この2種以外にも、こうした無責任な行動が、日本古来の生きものや生態系を、いま絶滅に追い込んでいます。

ちなみに、繁殖期（初夏）以外のウグイスの声は、**チヤッチヤッ・・・**あの美しい声と同じ鳥とは思えませんよね。



※裏表紙の写真：マガモ



前橋市役所 環境部環境政策課
〒371-8601 群馬県前橋市大手町二丁目12番1号
TEL : 027-224-1111

※写真、イラストの無断転用を禁止します。
古紙パルプを含む再生紙を使用しています